

# バスケットボールゲームにおける勝敗を左右する要因に関する一考察

06132012 城代さやか

指導教員 小川正行

キーワード：バスケットボール ゲーム 勝敗 シュート リバウンド ディフェンス 流れ 攻め方

## I. はじめに

バスケットボールの醍醐味の1つに、試合での勝利があることは否定できない。そこで、勝敗を左右する要因究明を、実際の試合を分析することによって考察することにした。一般的にバスケットボールにおいて重要視される「シュート、リバウンド、ディフェンス」と、筆者が経験から学んだ「流れ、攻め方」の5つを視点として分析を行う。その結果をもとに本報では、小学校・中学校の課外活動を指導する上で、チームを勝利に導くためこほどのようなことに留意すべきかを考察することを目的とする。

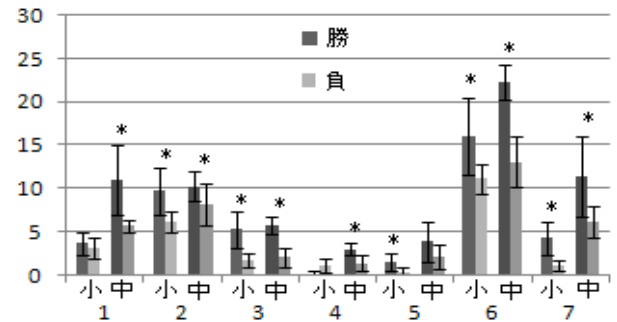
## II. 方法

ビデオに収められた小学校 (13 試合)、中学校 (11 試合) の実際の試合をシュート回数、リバウンドなど 43 項目について集計し、一対の標本による平均の検定 (P・t-test) を用いて分析を行い、シュート、リバウンド、ディフェンス、流れ、攻め方という視点から考察する。その結果をもとに、課外活動を指導する上で留意すべき点を明確化する。

## III. 結果・考察

シュートに関しては、小中学校共に「シュート率」において有意差が認められ、勝敗を左右する要因と言えそうである。リバウンドに関しては「オフェンスリバウンド」の項目において小学校では有意差が認められたが、中学校では有意差が認められなかった。ディフェンスに関しては、「カット」において小中学校共に有意差が認められ、勝敗を左右する要因と言えそうである。流れに関しては、小中学校共に「プラス要因」に関して有意差が認められた。プラス要因を細かく見ると、「シュート成功数」と「カット」に関して有意差が認められ、この2つは試合の流れにプラスに働いていると言えそうである。又中学校においてのみ「マイナス要因」に関して有意差が認められた。マイナス要因を細かく見ると「パスミス」「ハイオレーション」「P2 ファール」に関して有意差が認められ、中学校においてこの3つは流れに対してマイナスに働いていると言えそうである。攻め方に関しては、シュートエリアに着目して分析を行ったところ、小中学校共に有意差が認められたのは「ゴール下シュート」「ペナントエリアでのシュート」であり、勝敗を左右する要因であると言えそうである。又、シュート成功時のディフェンスの有無に関して見ると、小学校では大きな差は見られなかったが、中学校ではディフェンス有りのときにより大きな差が認められた。

図：学校・勝敗別P・t-test結果(攻め方)



1: レイアップシュート 2: ゴール下でのシュート 3: ペナントエリアでのシュート 4: ミッドシュート

5: 3Pシュート 6: ディフェンス有シュート 7: ディフェンス無シュート \*印・・・P < 0.05

## IV. まとめ

「シュート率」「カット」「ゴール下でのシュート」「ペナントエリアでのシュート」に関しては、小中学校共に試合を左右する要因であると考えられ、指導の留意点として挙げられる。又、流れに関して、「シュート成功数」と「カット」は流れにプラスに働く要因であると考えられ、試合中留意する必要があるだろう。今回の研究ではリバウンドの項目に関して、中学校では有意差が認められなかったが、この結果は先行研究や筆者の予想とも反しており今後研究を進めていく必要があると感じる。シュート成功時のディフェンスの有無に関して、中学校ではディフェンス有の時により大きな差が見られたことより、小学校ではディフェンスがある状態でのシュート力が重要であると言えそうだ。

最後に、精神面に関しても言及したい。小学校においては、技術レベルが未熟であり、ミスなどが多く起こる。それを否定的に捉えることよりも、良いプレイに目を向け、選手の可能性を伸ばしていきけるよう指導するべきだと考える。中学校においては、技術レベルが小学校よりも高くなり、ミスなどが勝敗を左右すると考えられる。それを見過ごさず、同じことが起こらないよう指導するべきだと考える。特に「パスミス」「ハイオレーション」「P2 ファール」に関しては注意が必要である。

## V. 参考文献

- 1) 八坂昭仁, 野寺和彦 (2007) バスケットボールのゲームにおけるショット成功率が勝敗に及ぼす影響, 九州共立大学スポーツ学部研究紀要, pp.17 - 22
- 2) 武井光彦, 江田昌佑, 日高明 (1984) バスケットボールのリバウンドボール獲得についての一考察, 大学体育研究第6号, pp.21 - 28